

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

はいさい

《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

AI問診 はじめました

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

2020年11月より初診内科でAI問診を開始しました。今までは看護師と対面しながらの問診でしたがAI問診は、iPadを使用しての問診となります。



導入のメリットとして

- 1、患者さんの待ち時間の軽減(満足度の向上)
- 2、滞在時間の短縮に伴う院内感染のリスク軽減

以上の2つが挙げられ、患者さんの満足度に繋がっていていると考えています。

AI問診は患者さん自身でiPadへ入力してもらい、質問事項は約3分程度で終了します。

現在は導入期のため、従来の看護師による問診とAI問診の併用で行っていますが、操作に慣れるまで職員も奮闘している最中です。

機械の操作が困難な患者様には、これまで通り看護師で対応しますのでご安心下さい。

初診内科を受診される際は、AI問診へのご協力をよろしくお願いいたします。

1階外来 山城 優理子

再来受付機 の場所が変わりました

生協コーナーの前から、玄関入ってすぐの場所に
再来受付機を移動しました。



病院の 活動状況 <2020年12月度>

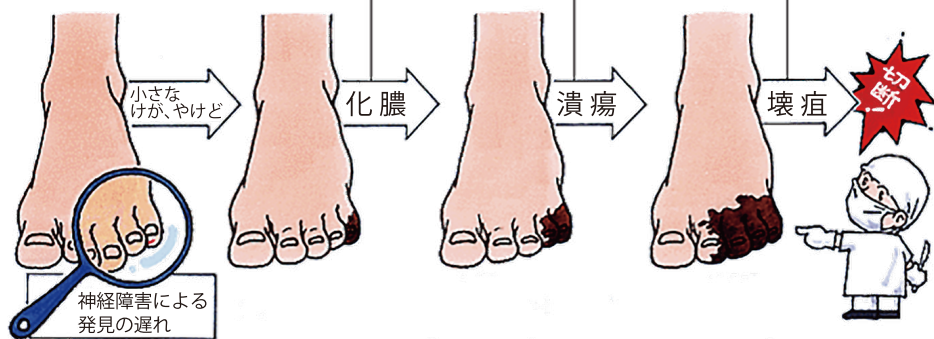
- ・外来一日平均患者数：275人（前年同月比 -64人）
- ・入院一日平均患者数：272人（前年同月比 -19人）
- ・組合員利用分量(率)：56.8%（前年同月比 +6.5%）

糖尿病患者のフットケア

いさぎ

174 協同にじクリニック(内科)より

- ・高血糖のために感染症にかかりやすい
- ・血管障害のために組織の修復に時間がかかる
- ・病状が悪化しても自覚症状が少ない



協同にじクリニック
糖尿病看護認定看護師
赤嶺 勝

皆さんは「糖尿病性足病変」を存じですか？
糖尿病で血糖値が高い状態が続くと、糖尿病の3大合併症である神経障害や、動脈硬化などが起こります。動脈硬化は血流障害をおこし、結果、足に様々な異常が出やすくなります。また、高血糖の状態は身体の抵抗力を落とすため、細菌感染がよりやすくなります。

神経障害では足の感覚が鈍くなり、傷や潰瘍が出来ていても痛みを感じず、気付かないことも少なくありません。さらに、糖尿病の合併症である糖尿病網膜症などにより視力が低下してくると、足の変化に気づかず、重大な病変「糖尿病足病変」に進行してしまい、最悪の場合は「切断」に至るケースも少なくありません。

そこで、大切な足を守るためには、血糖値を良好にコントロールするとともに、日々のお手入れ「フットケア」が重要となってきます。ご自身の足の状態を知り、その状態に合わせた方法で手入れをしていくことが大切です。

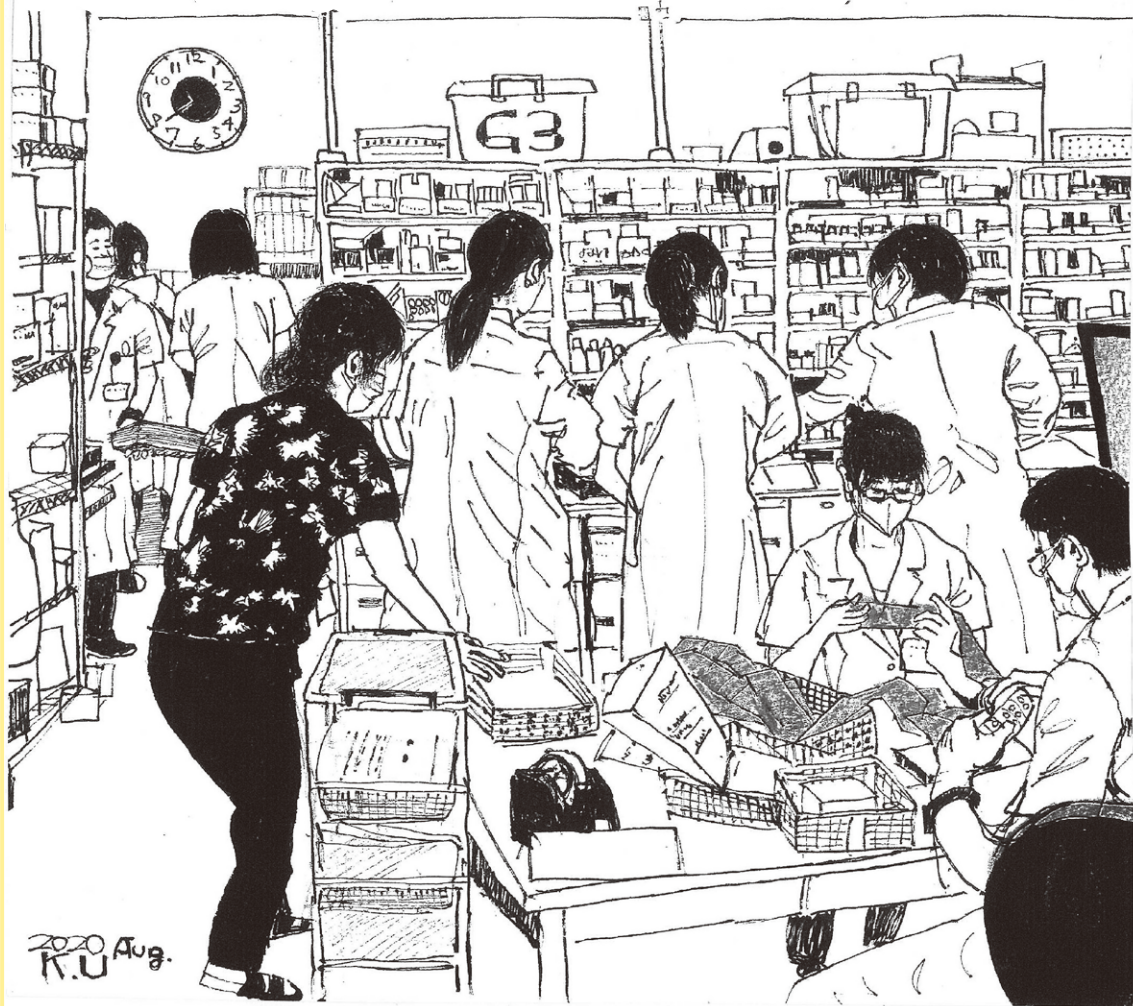
フットケアの一つめは、足の観察を行うことです。指や爪の変形がないか？たこや魚の目が出来ていないか？傷は出来ていないか？など足の変化を知ることが大切です。また、足の清潔を保つことも重要です。特に高血糖状態が持続すると感染しやすくなりますので、毎日足をしっかりと洗い、水気をしっかりと拭き取ることで感染リスクを減らすことに繋がります。

血流障害のある方は足先が冷たくなります。出来るだけ足を温める必要がありますが、湯たんぽやカイロなどは火傷の原因となりますので絶対に使用せず、靴下による保温に努めてください。

万が一、足に傷を見つけた時には放置せず、早めに相談するようにしてください。

「大丈夫」と思っているうちに悪化し「切断」へと繋がることもありますので、しっかりと自分(ご家族)で足を観察し、何かあれば早めに主治医へ相談しましょう。

ただいま調剤中(こくら虹薬局)



画・内科医 上原 和博



<ご意見・ご要望>

玄関入口と出口の通路を分けているが、現状だと交差し、人が交わる環境であるため入口を受付側、出口を外側に統一し通行がスムーズになるとともに、人との接触を制限できると思います。

<お返事>

ご意見有難うございました。

早速検討させていただき、写真のように案内表示を変更して同線の流れがスムーズにいくようにいたしましたので、報告いたします。今後もお気づきの点がありましたら、ご意見ご指導をよろしくお願いいたします。

総合案内 大田 明子



サーの一番基本的なことを忘れていた。

さて、テレビで「緊急事態宣言の延長、拡大の可能性について」聞かれた首相は「仮定のことば考えない」と答えている。感染者が増加している時に火に油を注ぐような「GO TO キャンペーン」の強行や感染力の強い変異種の侵入を早々に許しているのも「仮定を考えない」からだろう。何事も仮定をしなければ、対策も立てられないのに。

病床数が世界一の日本だが、アメリカの1%の感染者数で医療が逼迫して、入院できずに自宅療養(三・五万人)で亡くなる人が相次いでいる。感染者数の実態把握に重要なPCR検査の延実施率は他の先進国が軒並み40%超に対し、日本はわずか四・五%だ。最近ではハルサーなのにテレビと新聞を前にしてイライラとワジワジの毎日を過ごしている。

第一波から一年、議論の時間は十分あるのに政治家はこの有事に臨時国会を開催せず、やっと通常国会が開会したと思ったら、居眠りが続出する始末。この国のトップは私のハウス内の白菜と同じく自分の居場所を間違えていると思えない。

ハルサー 金城 稲子

ハルサー
だより®

白菜

昨年の夏は長雨と日照不足で高騰、冬は高温で成長すぎて野菜は下落した。台風、大雨などの自然災害では全滅も珍しくない。ハルサーは天候で一喜一憂するが、一憂を減らすのにハウス栽培は最適だ。そこで今年はハウスに冬野菜代表の白菜を植えてみた。ハウス内は暖かいのですぐにスーパに並べられるほどに成長した。わくわくしながら収穫し、切ってみるとシヨック。中がひとつ残らず腐れていたのである。原因はおそらく巻く時期にハウス内の増幅した気温にさらされ煮えたのだらう。冬野菜には冬の環境が必要だというハル